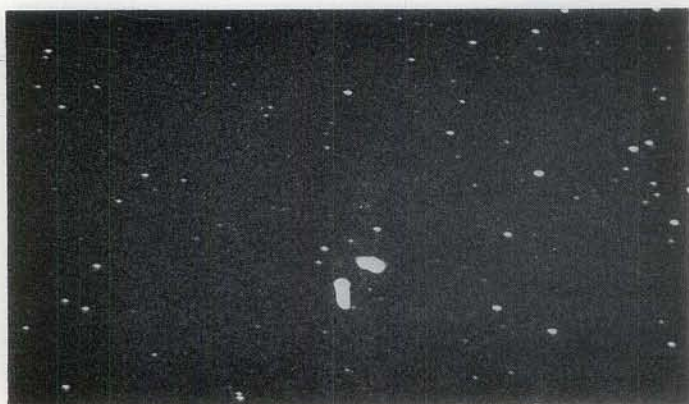


1970年発見時の小島周期彗星と小島氏の観測所

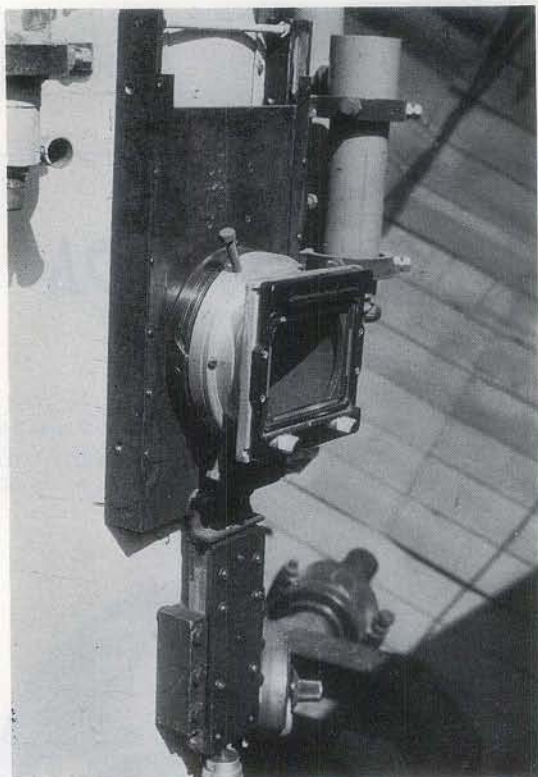
(本号表紙参照)



▲ 小島氏により発見されたときの 1970r=1970 XII 彗星
1970年12月 27^d20^h15^m~20^h23^m U.T.
31.5 cm F/5 自作反射赤道儀に Tri X Pan 使用.
約 14 等



▲ 31.5 cm 反射赤道儀
21.5 cm F/3.8 反射案内鏡が同架されている

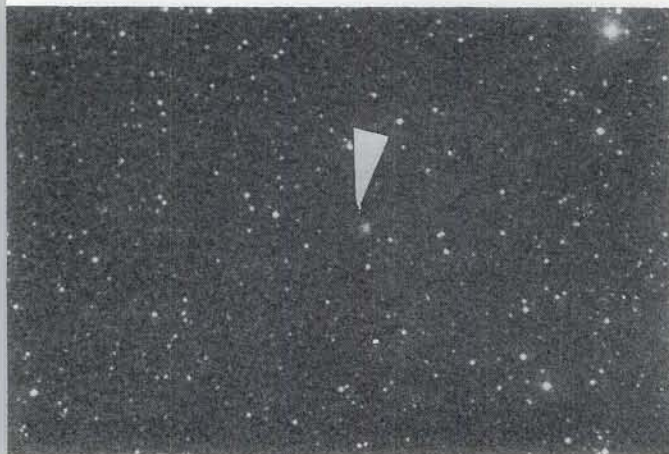


▲ 31.5 cm 鏡の接眼部
(ガタがないことと、ピントの微調整が
しやすいようにスライド式にしてある)

観測室 自作 3m ドーム
(このような条件の悪い場所です)



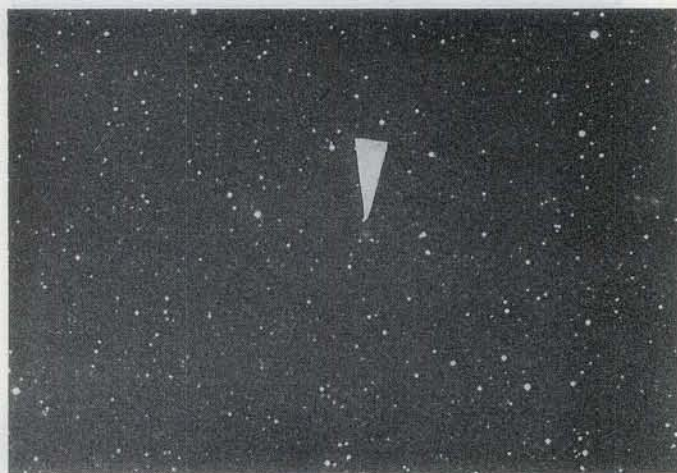
増光したシュワスマン・ワッハマン第1彗星



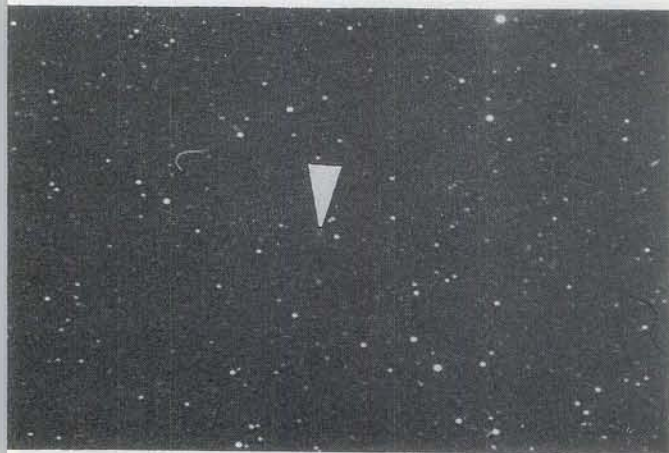
▲ ① 1978年1月4日 12^h03^m10^s~12^h13^m10^s U.T.
FL-OII+L39

時々不意に急増光することが知られているこの彗星が、本年初めにも増光し、東京天文台で観測された。

写真①~③は、堂平観測所の50cmシュミット望遠鏡によるもので、④は木曾観測所の105cmシュミット望遠鏡によるものである。スケールは全て15mm=10分角である。

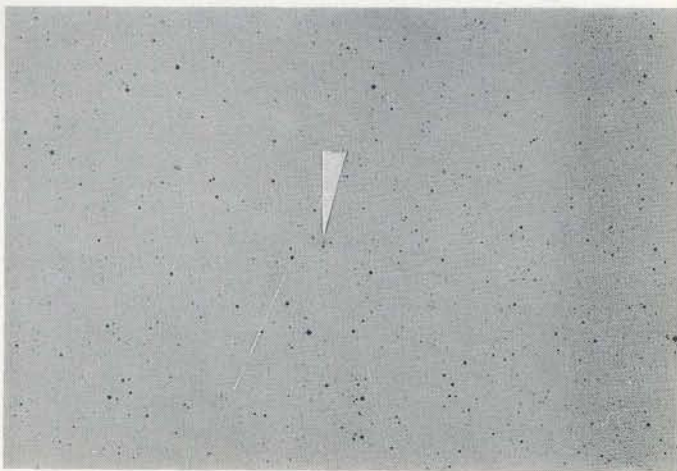


▲ ② 1978年1月4日 18^h44^m00^s~18^h50^m00^s U.T.
103a-E+Y50



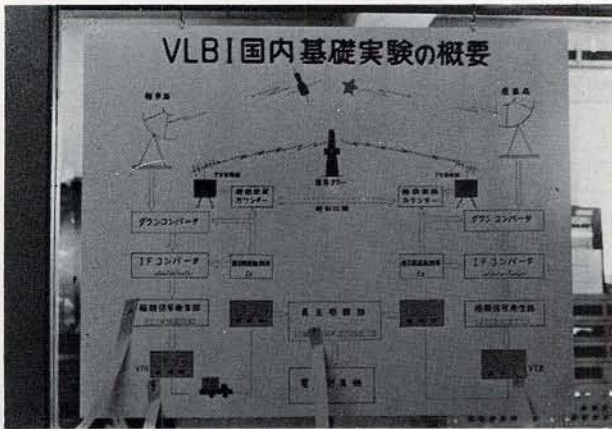
▲ ③ 1978年1月5日 11^h41^m10^s~11^h49^m10^s U.T.
FL-OII

▼ ④ 1978年1月7日 13^h49^m13^s~13^h56^m59^s U.T.
IIa-O+GG385



VLBI 国内基礎実験

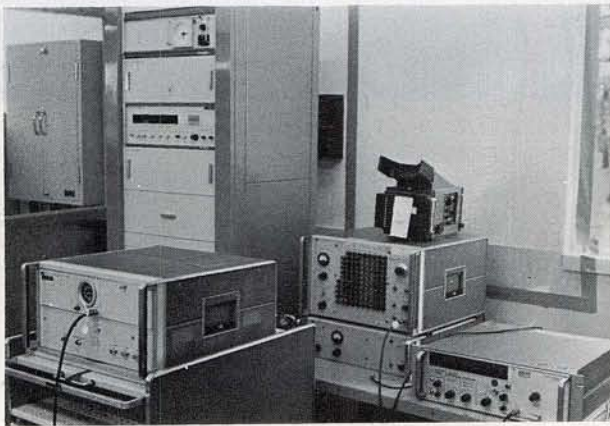
(本文 川尻氏記事参照)



▲ VLBI の実験の概要を示すパネル



▲ 実験に使用された装置のバック・エンド部
左から VTR, 相関信号発生部, モニター用記録計などがある。



▲ 実験装置のシステムの中のローカル系を形づくるもので、周波数合成器、周波数カウンターなどである。



▲ データ処理を示すパネル。